

学習者とのラポールの構築 —休み時間のやりとりを通して—

萩原 宥子

【要旨】 本稿は「学習者とのラポールの構築」をテーマとした授業改善のためのアクション・リサーチの報告である。初対面の教師と学習者が、限られた時間の中でいかにしてラポールを築き、その関係性を授業の中でどう活かしていくのか、効果的な方法を3回の授業を通して模索し、改善を試みた。その結果、全員が参加しやすい話題を事前に準備することが重要であることや、授業前の休み時間に学習者をよく観察することで、授業を効果的なものへと修正できることなどが明らかになった。

【キーワード】 ラポール構築 学習者 休み時間 インタラクション コミュニケーション

1. はじめに

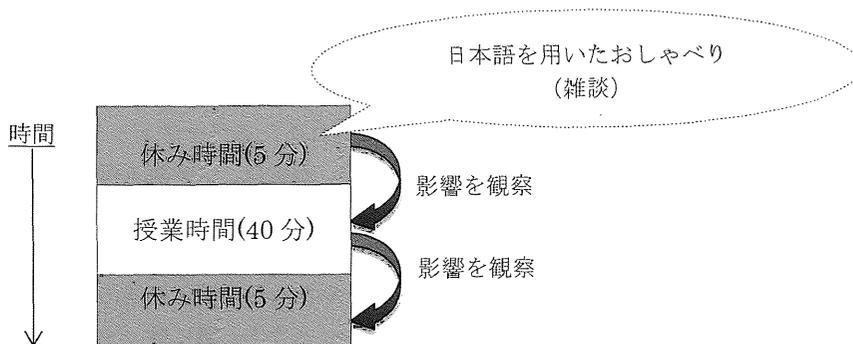
本稿は「学習者とのラポールの構築」をテーマとした授業改善のためのアクション・リサーチの報告である。なお、本稿ではアクション・リサーチを「自分の教室内外の問題及び関心事について教師自身が理解を深め実践を改善する目的で実施されるシステマティックな調査研究(横溝2000)」とする。まず、このテーマを選んだ理由を述べたい。筆者は、大学院入学と同時に国内の日本語学校で1年間非常勤講師として働いていた。日本では常勤として働く日本語教師は非常に少なく、平成25年度に国内外で行われた文化庁の調査によると、ボランティアが56.7%、非常勤30.2%、常勤はわずか13.1%に留まっている。大学の留学生センターや日本語学校、地域のボランティア教室では、教師が複数人でひとつのクラスを担当することが多い。しかし、週に数コマしか授業を担当しない非常勤教師や、仕事やプライベートとの両立が難しいボランティアは、常勤の教師と比較すると、特定の学習者と接する時間が短いことは明らかであり、その分、学習者とラポール(信頼関係)を形成することは難しいと言える。ラポール(rapport)とは、もともとは臨床心理学で用いられていた専門用語であるが、日本語教育学の分野では、縫部(2001)がラポールを「援助的關係」と位置づけ、学習者が安心して自己開示できる支持的教師風土の基本とし、教育において「人間へのアプローチ」が重要であるとした。私が非常勤として勤務していた際も、週に1度しか学習者と会うチャンスがなかったため、学期の間に学習者との距離を縮めることが非常に困難だと感じ、また、少しでも学習者との接触時間をとるために、休み時間にも学習者とコミュニケーションを図ることが重要だと実感していた。しかし、限られた休み時間に、誰に対して、どういった切り口で話しかけ、どういったことを話すことが効果的であるのか、答えが見つけられないままとなっていた。

日本語の会話の授業を通してアクション・リサーチを行った木原(2009)では、授業後20~30分程度の日本語会話練習を通して学習者とラポールを築くことで、授業に集中できる環境を整えられたことがアンケート調査により明らかになった。また、ラポールを築くことで授業中の学習者の緊張を和らげ、授業に集中できる環境を整えることを目的として、休み時間における学習者のインタラクションについてマイクロエスノグラフィーによる質的研究を行った宿谷(2004)では、複数の学習者が参加するインタラクションには、

- ①学習者同士親しくなるためのある程度の時間
- ②インタラクションが発生するきっかけとしてモノの関与
- ③休み時間という自由な空間
- ④共通の話題（「日本語学習について」が最も話しやすい）

などが条件として挙げられることが示された。また、レベルの低い学習者が目標言語でのインタラクションに加わることは、仲間に加わることできた満足感に繋がることなどが明らかになった。しかし、この研究は学習者間のインタラクションの観察と考察に留まっており、日本語教育の立場からこの結果を教室デザインとしてどのように活かすかということが考察されていない。

そこで本実習では、学習者とのラポール形成をテーマとして、アクション・リサーチを行った。本稿では、ひとつのクラスを複数人が担当するという教育実習の特性を活かし、休み時間を教師と学習者の貴重なコミュニケーション機会と捉えて学習者に接触を試みることで、「授業内の学生の態度・教師の授業運営にどのように影響を与えるのか」という観点から見た様々な課題、それに対する改善を記述し、授業分析の結果に基づいて、実施した行動方略の評価を行う。



【図1 観察方法】

2. 実習概要

本実習は、「日本語教育実践研究Ⅱ」として2015年度春学期に筑波大学大学院人文社会科学部国際地域研究専攻日本語教育研究コースで実施された。本実習の目的は、実習準備（教科書分析）、教室運営（カリキュラム作成、学習者募集、教案・教材作成、授業の実施、反省会）、論文執筆（アクション・リサーチの執筆）など一連の活動を通して、日本語教育に必要な諸技能を身につけることである。学習者は、日常生活レベルの日本語会話学習を希望している成人を対象とし、プレースメント・テストによりレベル判定を行い、J1クラス（ゼロ初級）とJ2クラス（初級）の2クラスを開設した。

筆者の担当したJ2クラスは、日常生活場面において、現在できるパフォーマンスプラスαの日本語力を身につけ、自分自身のことについて周りに発信できるようになることを目標とし、授業では場面シラバスと機能シラバスの折衷シラバスを採用した。学習者はつくば市在住の成人9名で、国籍と人数はそれぞれ、インドネシア（4名）、中国（2名）、ルーマニア（1名）、モンゴル（1名）、ベトナム（1名）であった。プレースメント・テストの結果から、J2クラスの学習者全員が、平仮名・片仮名は学習済みであり、基本的なあいさつや自己紹介、数字の読み方などについては、多少の発音

の間違いなどは伴うものの問題なく行えるレベルであると判断できた。J2 クラスでは、全7日、21コマ分(40分授業×1日3コマ×7週)授業を行った。また、J2 クラスは、日本語教育研究コース2年次に所属する大学院生6名と、日本語・日本文化学類4年次の大学生1名、計7名で授業を担当した。加えて、来年度実習に参加する大学院1年次の学生や学類生が(1日3名ほど)が教室内で見学した。

筆者が担当した授業と学習項目は表1の通りである。

【表1 担当授業の学習場面と目標】

日程	場面	学習目標 (Can-do)
2週目／1コマ 6月8日	コンビニ	コンビニやスーパーで商品の場所を店員に尋ねることができる。 簡単な助数詞を使って、欲しいものの数などを表現することができる。
4週目／2コマ 6月22日	病院	病院で場所の説明をされたとき、指示を聞きとることができる。 自分の家について、簡単に場所を説明することができる。
6週目／3コマ 7月6日	美容院	上、下、右、左などの表現を用いてももの位置についての話ができる。 髪型に関して、自分の意志を伝えて交渉できる。 美容院で必要となる基本的な会話ができる。

3. 分析の方法

行動方略の決定に至った過程を記述するため、教案、授業のビデオ、実習反省会の議事録、私の内省メモをデータとして用いる。なお、本実習では通例授業の40分間のみ撮影することとなっていたが、休み時間内での行動も分析対象とし、授業前後の5分間も撮影を行ったため、その部分もデータの一部として分析する。ビデオデータは、発話内容や行動を客観的に把握するため、必要に応じて文字化を行った。

4. 1回目の授業

4.1 行動方略の決定

1回目の授業は、第2週目(2015年6月8日)の1コマ目であった。第1週目の授業を事前に見学することができたため、学習者の顔と名前は事前に覚えることができた。この授業では学習者と初対面であったため、1回目の授業は学習者と少しでも多く会話する機会を持ち、学習者の特徴や学習者間の関係性を理解することを1回目の授業の行動方略とした。

4.2 1回目の授業概要

1回目の授業は、コンビニやスーパーなどを場面として設定し、店内で探している商品を店員に尋ねられるようになることを目標として、次のような流れで授業を行った。

- ①コンビニの画像を見せ場面を理解させた後、オリジナルのモデル会話ビデオを鑑賞
- ②レアリアを使った単語の導入、数字カードによる「ひとつ」「ふたつ」の練習
- ③グループでの単語カルタゲーム
- ④口頭練習、コンビニでのロールプレイ(店員:教師/客:学習者)

- ⑤録音された会話を聞く聴解問題
- ⑥学習者同士でハンドサインの教え合い

4. 3 反省会のコメント

授業後に行った実習反省会では、指導教員やティーチング・アシスタントおよびティーチング・フェロー、実習を一緒に行った観察者から、良かった点として、

- ・ハンドサインの流れが自然で良かった。
- ・学習者ができた・正解したときに拍手で褒めており、クラスの雰囲気作りが出来ていた。
- ・手際がよかった、声もはっきりして学習者への当て方も良かった。

次に、改善点として、

- ・「ふたつ」をゆっくり発音した際、語頭「ふ」の母音が無声化していなかった。
- ・教案の時間配分について、3分以上の教案内容は細分化して書く必要がある。
- ・「タオル2つ」という表現は許容度が低い。
- ・時間が余ったのなら、「申し訳ありません」の意味や使い方を教えるのも手だった。
- ・全体的に内容が易しかったため、学習者が「新しく何かを身につけた」と感じにくい。

などの意見を得た。教師と学習者の関係性において「褒め」は重要な要素であり、ラポール形成にも大きく関わっている。もちろん、むやみに何でも褒めれば良いというものではないが、今回のコメントを受け、たとえ正確な答えでなくても学習者が思い切って発言できたときや、努力の成果が感じられるようなときは積極的に褒めることで、教室の雰囲気作りに繋げようと考えた。また、改善点として挙げられた、学習者が「新しく何かを身につけた」と感じにくい、というコメントに対しては、自分の語学学習の経験からも語学学習を継続させるには達成感・充実感が重要であることを強く感じたことから、次回の授業ではポイントを絞って、「今日はここを覚えて帰ってほしい」という教師の気持ちストレートに伝えることが、授業に対する満足感に繋がるのではないかと考えた。

4. 4 授業分析

ここではラポール形成ということに焦点を当てて、授業を振り返りながら分析を行う。

まず、授業前学習者が教室に入ってくる際、ひとりずつ名前を確認しながらネームカード(学習者ひとりひとりの名前が書かれているカード。授業中は机の上に置いておくこととなっていた)を手渡し、「萩原です。よろしくお願いします」となるべく丁寧に、目を合わせて挨拶した。学習者は、筆者の名前を復唱して確認したり、「よろしくお願いします」と挨拶を返したりしていた。

授業では、大型のテレビモニターを利用し、パワーポイントや自作のモデル会話ビデオなどを流しながら、ミニゲームやタスク活動を行った(巻末資料1参照)。授業前に学習者とコミュニケーションをとることで、教師自身がリラックスして授業に臨めた。また、単語導入などで学習者個人にリピートさせる際、授業前の会話である程度発音の特徴などを捉えられたため、リピート練習の指名順を考える際、判断材料にすることができた。また、指を折ることで数字を示すハンドサインについて、自分の国ではどのように表現するか、ひとりずつ学習者に発表させることで、学習者の自由発話の機会を確保した。

授業中、学習者にリピート以外で発話する機会を多く持たせることで、学習到達度や発音能力を判

断ることができたため、授業後、他の学習者と比べて進度の遅い学習者 A に対し、発音の個人指導を行った。すると、隣の席に座っていた学習者 B が学習者 A への指導に加わり、二人体制で指導を行うことで、教師（筆者）と学習者 A だけでなく、学習者 A と学習者 B のラポール形成も同時に促すことができた。

全体として、授業前に想定していた以上に学習者とコミュニケーションをとることができたが、反省点として、授業後の休み時間では、学習者 A、B 以外の学習者とコミュニケーションがとれなかったことが挙げられる。また、今回は授業前に話す内容として「自己紹介」を準備していたが、それだけでは5分間の休み時間が余ってしまうため、事前に話す内容をある程度準備しておくことが必要だと感じた。

5. 2 回目の授業

5. 1 行動方略の決定

2 回目の授業は、第 4 週目（2015 年 6 月 22 日）の 2 コマ目であった。1 回目の授業の反省を踏まえ、大きな偏りなく学習者全員とコミュニケーションを図ること、話すトピックを事前に準備しておくことで、休み時間を有効に使うことを 2 回目の授業の行動方略とした。

5. 2 2 回目の授業概要

2 回目の授業は、病院などの大きな建物の中を場面として設定し、部屋の場所について説明を受けた際に指示を聞き取れること、また、発展的な内容として、自宅の場所を簡単に説明できるようになることを目標として、次のような流れで授業を行った。

- ① 病院内の地図を見せ、広い建物内で迷っている状況を想像させた後、モデル会話ビデオの鑑賞
- ② ビデオをコマで切り、セリフを字幕として載せた画像を見せながら内容確認、リピート
- ③ 単語確認のあと、モデル会話と異なる文の聞き取り練習、解説
- ④ リスニング問題
- ⑤ 簡単に地図を準備し、自分の家の所在地を説明するタスク（ペアワークのあとクラス全体に発表）

※プライバシー保護のため、実際の居住地に忠実である必要はないことを英語で伝えた。

5. 3 反省会のコメント

授業後に行った実習反省会では、指導教員やティーチング・アシスタントおよびティーチング・フェロー、実習を一緒に行った観察者から、良かった点として、

- ・ 全体的に手際が良く、学習者を待たせる時間が少なかった。
- ・ 新しい内容が多く、学習者がいい緊張感を持って授業に臨めた。

次に、改善点として、

- ・ 学習者が「曲がるとすぐです」と「曲がってすぐです」の区別がついていなかった。
- ・ 聞く・話すを両方させるのではなく、実用性重視で聞き取りだけ特化させることも可能だった。
- ・ 授業内で取り上げられていた一回聞いて分からなかった場合の聞き返し方（「すみません、もう一回言ってください」的表現）は実際学習者にとって役立つ表現なので、さらに詳しく確認できていたらよかった。

などのアドバイスを得た。前回の授業では、全体的に内容が少し易しかったという意見を得て、今回は学習者にとって新しい内容を増やした。結果、学習者がいい緊張感を持って授業に臨むことができ、教師も充実した授業が行えたと感じた。また、コメントを得て、今回の実習では特に実用的な日本語を身につけさせることが必要であるため、次回からその点を意識して授業で取り上げる内容を選定していくべきだと再確認した。

5. 4 授業分析

2回目の授業について、ラポール形成に焦点を当てながら振り返り、分析を行う。

まず、授業前には、直前の1コマ目の授業の内容と関連させ、「元気ですか？」から始め「日本で病院に行ったことがありますか？」などの話をしようと考えていた(巻末資料2参照)。しかし、1コマ目の授業を観察していたところ、新出の「て形」に対する反応が学習者によって異なり、想定以上に文法内容の理解が進んでいなかったため、急遽、休み時間に「て形」に関して事前に知識があったのか、どのような勉強方法をしたのかなどについて、学習者ひとりひとりに聞いて確認を行った。この作業により、授業中に学習者の理解度を踏まえて適宜補足を入れながら授業を行うことができた。授業中には、1回目の授業後の学習者A、Bのラポール構築を利用し、ペア学習の際にこの2人をペアとして組ませた。学習者AはBに教えてもらった経験から、わからない部分を積極的に質問し、また少し学習進度の早い学習者Bも、Aに教えるという役割を担うことで、授業に飽きることなく集中している様子を見せていた。

また、授業前教室に入ってすぐに、教師の紹介ポスター(写真1)の名前の部分を隠し、「私の名前は何か?覚えていますか?」という話をしたところ、授業後わからないところがなかったか学習者に確認して回った際、学習者Cが「萩原先生」と名前を呼んで質問を行い、教師と学習者との距離が一気に縮まったと感じた。

授業が2分ほど早く終わり、時間に余裕があったため、前述した学習者Cの質問に答えたほか、トイレで席を立った学習者B以外の、全員と会話をすることができた。会話の内容は、最後に行った「自分の家の場所を簡単に紹介する」というタスクから、

自然と「大学の近くのモールによく行くか、

「どこで買い物をするのが好きか」、「私の家の場所はどのあたりか」などに発展した。授業中ではプライバシーに踏み込みすぎた内容となるためこれらの内容は控えたが、街の情報を共通項として、同じつくば市に在住する市民としてフランクに話すことができ、自然と会話が弾んだ。このことは、授業内でなく休み時間の「おしゃべり」を利用したラポール構築の利点であると感じた。

以上のように、2回目の授業では、ラポール形成において1回目の反省を活かすことができた。しかし、今回のようにいつも時間に余裕があるとは限らないため、限られた時間の中でのなるべく多くの



【写真1 教師紹介ポスター】

学習者と触れ合うには、全員が答えやすい内容を準備し、新たな課題として、教師と学習者1、2人という少人数の会話でなく、教師と学習者複数人、また学習者同士でも話せるような環境づくりが必要であると感じた。また、授業でパワーポイントを使用するため、授業前の休み時間に、モニターにパワーポイントの最初のページを表示することになるが、それが気になっている学習者が目に付いた。事前に想像させるならそのために、話を弾ませる材料とするならそのつもりで、授業前に「教室を作る」ことが重要であると気づいた。

6. 3回目の授業

6. 1 行動方略の決定

3回目の授業は、第6週目(2015年7月6日)の3コマ目であった。1、2回目の授業の反省を踏まえ、パワーポイントの最初のページをうまく利用し会話を膨らませること、休み時間に「おしゃべり」をするテーマとして、全員が加わりやすい話題を準備しておくことを3回目の授業の行動方略とした。

6. 2 3回目の授業概要

3回目の授業は、美容院を場面として設定し、自分が希望するスタイルに髪を切ってもらえるよう、要望が伝えられるようになることを目標として、次のような流れで授業を行った。

- ①手作りの顔パーツを使った単語導入
- ②顔パーツの一部を上下左右に動かすことで「もう少し上/下」などの表現練習
- ③い形容詞から「～くしてください」の変形練習
- ④福笑いのゲームや背景を説明したあと、ゲームの実践
- ⑤オリジナルのモデル会話ビデオ鑑賞、内容確認
- ⑥美容院のロールプレイ(美容師:教師/客:学習者)

6. 3 反省会のコメント

授業後に行った実習反省会では、指導教員やティーチング・アシスタントおよびティーチング・フェロー、実習を一緒に行った観察者から、

まず、良かった点として、

- ・日本の伝統的な遊び「福笑い」を練習に用いるアイデアがよかった。
- ・学習者が上/下/右/左の練習が自然に行えた。
- ・口頭練習での全体コーラス・個人指名の使い分けや、当てる回数の判断が適切だった。
- ・モデル会話の文章にこだわらず、学習者が文を組み立てながら発話ができていたためよかった。

次に、改善点として、

- ・一覧で示した形容詞が、一部対応関係になっていなかった(かわいいー安い)。
- ・福笑いについて、机の上でゲームを行っていたが、もう少し人数が多い場合は黒板に貼り付けるようなものになると全員が見やすくなる。

などのコメントを得た。福笑いのゲームは、学習者3人と教師1人で机を囲んで行ったため観察者からは見にくい活動になってしまったが、1、2回目の授業で自然発生的に行われた「学習者間での教

え合い」にヒントを得た活動であり、今回も学習者同士が自然と「教え」、「助け」、「褒め」ながら非常にいい雰囲気を進めていくことができた。学習者をよく観察し、その学習者に合った活動を提供することの重要性を感じた。

6. 4 授業分析

3回目の授業について、ラポール形成に焦点を当てながら振り返り、分析を行う。

まず、この日は梅雨時期で雨が降っていたことを利用し、授業前にパワーポイントで雨の窓辺の写真を出しておき、そこから話を始めた(巻末資料3参照)。授業直前に「用事がある」と言って学習者が数人抜け、教室に3人だけになってしまっていた中で、ある学習者が「雨きらいです」と言ったなり伏せてしまい、他の2人も少しぐったりしている様子であった。その様子から、このままの教案では授業に集中して臨むことが難しいと判断し、その場で授業の時間配分の見直しを行った。具体的には、レポート練習や形式を重視した代入練習、変形練習の時間を必要最低限に短縮させ、ゲームの時間を多く取り、ゲームを進める中で必要な語彙や表現を学ぶ形に変化させた。授業中の教師-学習者という関係性では見せにくいであろう「疲れた」という意思表示を休み時間の会話を通してしっかりと受け止めることができたため、プラス方向に授業の軌道修正を行うことができたと感じた。

授業前の修正に沿ってゲーム時間を長く取ったところ、学習者の自由発話が増え、福笑いのゲーム遂行に必要な「上・下・右・左」などの語彙以外にも、「上下が逆・裏表が逆」など発展的な表現についての質問も飛び交い、学習者が積極的に産出活動を行える環境づくりができた。

7. おわりに

以上、3回の授業のアクション・リサーチにより、明らかになったことは以下の3点にまとめられる。

- 学習者とのラポール形成につながる、有意義な休み時間を過ごすためには、全員が入りやすい話題を事前に準備しておくことが有効である。
- 学習者への働きかけは、<授業前の行動→授業中への影響>や、<授業中の行動→授業後への影響>といった単純な関係だけではなく、1回目の授業前にした行動が3回目の授業中に響いたり、授業中に観察したことがその授業中に生きてラポール形成に繋がったりと、複雑なものである。そのため、学習者の行動を分析する際は、直前/直後のみの行動を分析するだけでなく、長期的・多角的に観察・分析する必要がある。
- 学習者とラポールを築き、授業をより良いものへと改善させるためには、学習者の人数や理解の進度だけでなく、学習者のその日の体調や気分など、授業前の時間などを有効に使い学習者をよく「観察」することが重要である。

授業は「生もの」であり、1回の授業で反省を行ったからといって、次の授業は1回目と同じ状況が用意されているわけではなく、学習者が急に減ってしまったり、想定よりも理解が進んでおらず授業に付いてこられなかったりするものである。アクション・リサーチで反省し、次に活かそうと意気込んだものの、イレギュラーな状況によって臨機応変に対応することが求められ、全ての反省点をた

った3回の授業で改善することはできなかった。また、教育が人と人との関わりであるという前提から、「教え方」の問題以上に「接し方」に絶対的な正解はなく、また、「こうしたからこうなった」という因果関係も不明瞭である。しかし、今回初めてアクション・リサーチに取り組み、日頃教壇に立つ中でぼんやり「改善したい」と考えている問題を実際に改善していくためには、どのような視点で問題を分析し、授業を改善させ、自身の教育に対する考えを深めていくか、その一連のスキルが身についたように思う。学習者と関係性を築くためのアプローチも、今回いくつかの方法を試みることで、正解やゴールがあるものではないが、スキルは確かに存在し、教師自身がそれらを整理し、経験として積み上げていくことは可能だと感じた。

今回のアクション・リサーチのテーマは、自身の非常勤講師の経験を通して見つけた課題であった。つい「日本語を教えること」を改善することのみに追われてしまい、人と人との関係として、学習個人と向き合い、信頼関係を深めることが後回しにされがちであるが、教育におけるラポールの重要性を再確認することができた。

今後教師活動を行う中で、今回のアクション・リサーチで得た知見と、反省会でいただいたアドバイスを活かしながら、学習者とのラポールを大切に授業づくりを続けていきたい。

参考文献

- 木原直子(2009)「学習者の情意面を意識した外国語教育：台湾日本語専攻者向け会話授業のアクション・リサーチ」『言語文化と日本語教育』第38号、お茶の水女子大学、pp.112-115
- 縫部義憲(2001)『日本語教師のための外国語教育学』風間書房
- 宿谷和子(2004)「学習者間のインタラクションに見られる日本語学習のプロセス：地域の日本語教室の休み時間の観察から」『言語文化と日本語教育』第28号、お茶の水女子大学、pp.111-114
- 横溝紳一郎(2000)『日本語教師のためのアクション・リサーチ』凡人社

参考 Web ページ URL

文化庁 HP (2015.7.11. 13:30 閲覧)

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittaiichousa/h25/gaiyou.html

資料1 日本語教育実習教案1回目

2015.6.8(月) 日本語教育実習教案 J2(第二週一コマ目)

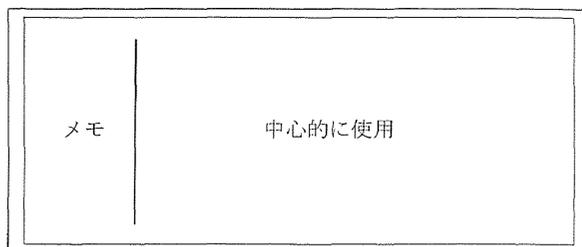
萩原宥子(一回目)

目標	コンビニやスーパーで見つからないものを店員に尋ねることができる。 簡単な助数詞を使って、欲しいものの数などを表現することができる。
既習	<表現> 「よろしくお願ひします」「あのう、すみません」「～はどこにありますか」 「(行きたい) んですが」 <語彙> 1週目学んだ語彙(単語)で活用するものは特になし
新出	<表現>…授業ではじめて取り扱う

	基本：「こちらです」「(欲しい) んですが」「ひとつ、ふたつ…」 応用：「こちらを〇つください」「こちらを〇つお願いします」 <語彙>…宿題として一通り覚えてきているものとして取り扱う 欲しい、のり、サンドイッチ、コーヒー、ガム、タオル いらっしやいませ、少々お待ちください (↑授業では、直接法での説明で意味理解に時間を割くより、事前に語彙として導入し運用練習に時間を当てる)
登場	キャラクターは登場しない
教具	名札(自分用)、のり3、サンドイッチ2、コーヒー5、ガム5、タオル5

<準備>

- ・黒板を線で区切って分けておく。
左側は間違えたものなどをメモし、一時間分そのまま残しておくために使う。
基本的に向かって右側にモニターが来るようにする。
- ・タスクの机、モノを配置しておく



<会話>

店員：いらっしやいませ。 (←※言えなくてよい)
 客：すみません、のりが欲しいんですが。ありますか？
 店員：のりですね。こちらです。
 客：あ、ありがとうございます。
 (ひとつしか置いていない状況を見て) 3つ欲しいんですが…。
 店員：少々お待ち下さい。 (←※言えなくてよい)
 こちらです。
 客：ありがとうございます。

※この会話をそのまま暗記して言えるようになるのを目指すのではなく、このやりとりが、多少形が変わっても再現できるところを目指す。

時間/内容	教師の行動	学習者の行動	備考
導入 0:00 3:30 所要(5)	「こんにちは、はじめまして、萩原です。よろしくお願ひします」 画面にコンビニの写真を出す  「なんですか？」 (↑正確には未習だが、J2のレベルから既習と判断) ローソン、ファミリーマートの写真をさっと順に見せ、学習者に「自分の知っていることだ、よく行くところだ」と感じさせる。	「よろしくお願ひします」 「セブンイレブンです」or「コンビニです」	「こちら」の意味がなん

	<p>「コンビニですね。こちらは、大学のコンビニです」 ←</p> <p><3B 棟前の丸善の写真を見せる></p> <p>「見てください」</p> <p>動画を見せる</p> <p><上記の会話を PC で流す></p> <p>「もう一回見てください」</p> <p><もう一回流す></p>		<p>となく理解できるように、Tは「こちら」を多く使うよう心がける。</p>
<p>助教詞導入</p> <p>0:05</p> <p>3:35</p> <p>所要(1)</p>	<p>(のりのレアリアを見せて)</p> <p>「これ、なんですか」</p> <p>「そうですね。のりがひとつあります」</p> <p>モニターにレアリアと同じデザインののりの写真をふたつ出して</p> <p>「のりが、…?」</p> <p>「ふたつです。ふたつあります」</p> <p>同様に、五つまで導入する</p>	<p>「のりです」</p> <p>「…」 or 「ふたつです」</p>	
<p>助教詞練習</p> <p>0:06</p> <p>3:36</p> <p>所要(4)</p>	<p>数字カードを出して、</p> <p>「ひとつ」</p> <p>「ふたつ」</p> <p>T (数字順) → 全員リピート</p> <p>T (数字順) → 個人リピート</p> <p>数字カードで Q 出し (数字順) → 全員</p> <p>数字カードで Q 出し (数字順) → 個人</p> <p>数字カードで Q 出し (ランダム) → 個人</p> <p>「はい、いいですね」</p>	<p>「ひとつ」</p> <p>「ふたつ」</p>	
<p>単語練習</p> <p>0:10</p> <p>3:40</p> <p>所要(3)</p>	<p>モニターでサンドイッチ画像を見せながら「これ、なんですか?」</p>  <p>「サンドイッチ」</p> <p>以下の新出単語を全員でリピート</p> <p>「コーヒー」「ガム」「ペン」「タオル」</p> <p>簡単なので、全員でリピートを行ったあとすぐランダム個人あて</p>	<p>「…」 or 「Sandwich」</p> <p>「サンドイッチ」</p>	
<p>ミニゲーム</p> <p>0:13</p> <p>3:43</p> <p>所要(12)</p>	<p>3、4人でグループを組ませる</p> <p>手で3、4人を手で囲って「グループです」と言い、グループにひとつカルタを1セットを渡す</p> <p>ひとつの机を囲むように立たせる</p> <p>※カルタは10枚組で右図のような絵柄→</p> <p>(のり:よつつ、コーヒー:みつつ など10種)</p> <p>モニターに10種のカルタを出し、</p> <p>「サンドイッチふたつ欲しいんですが」</p> <p>と言って学習者たちの反応を見ながら</p>		

	<p>「こちらですね」と言いサンドイッチがふたつあるカルタを選ぶ。ルール説明が終わったらカルタを行う。カルタが終わったら、</p> <p>「S1さんふたつ（カードをとった数）ですね。S2さんは？」</p> <p>人数が6人以下くらいなら全員聞く 多ければグループのトップだけ聞く</p>	S2「みつつです」	
<p>口頭練習 0:25 3:55 所要(2)</p>	<p>先ほどのカードを使って口頭練習</p> <p>「のりがほしいんですが」×5種</p> <p>T（提示順）→全員リピート</p> <p>T（提示順）→個人リピート</p> <p>カードでQ出し（提示順）→全員</p> <p>カードでQ出し（提示順）→個人</p> <p>カードでQ出し（ランダム）→個人</p> <p>「のりがふたつほしいんですが」×10種（カルタ同様）</p>	「のりが欲しいんですが」	
<p>タスク 実践練習 0:27 3:57 所要(13)</p>	<p>以下のようなカードをひとりずつ渡す</p> <div data-bbox="257 703 677 929" data-label="Image"> </div> <p>セブンイレブンの制服を着て、ここがコンビニだということを意識させる。</p> <p>ひとりずつ前に来させる。</p> <p>品物を布で隠した状態で、</p> <p>「いらっしゃいませ」と言いタスクをスタートさせる</p>		
	<p><パターン①></p> <p>「いらっしゃいませ」</p> <p>「タオルですね。こちらです」 (布をめくる、タオルがひとつある)</p> <p>「少々お待ちください。 (教卓の下から出して) ……こちらです」</p>	<p>「すみません、タオルが欲しいんですが」</p> <p>「すみません、みつつありますか」</p> <p>「ありがとうございます」</p>	
	<p><パターン②></p> <p>「いらっしゃいませ」</p> <p>「はい、少々おまちください、こちらです」</p>	<p>「タオルみつつありますか」</p> <p>「ありがとうございます」</p>	
<p>予備 所要(5)</p>	<p><時間が余ったら></p> <p>店にモノがないパターンを練習する</p> <p>音声①</p> <p>客「すみません、タオルありますか」</p> <p>店「申し訳ありません、ないんです…」</p>		

	客「あ、わかりました。」 店「申し訳ありません」 音声② 客「すみません、こちらのサンドイッチ、4つありますか」 店「すみません、ちょっとおいてないですね…」 客「わかりました」 店「はい、すみません」 スクリプトをボードに出し、「ない」に注目させる。 「ない」ときたら、「わかりました」と答えるように指示し、 さきほどのタスクカードを活用しもう一度練習		
予備② 所要(2)	ハンドサインの教え合い 「日本には、ハンドサインがあります。見てください」 いち、に、さん…の順番にやる 「〇〇さん、<国名>はハンドサイン、ありますか？日本と同じですか？」		
予備③ 所要(3)	数字 むっつ～ここのつ ひとつ～いつつと同様 にカードを出して練習する		
あいさつ	「はい、五分休みましょう」		

- もし「こちらです」は「これです」じゃだめ？と聞かれたら
先生—学生 →○こちらです △これです
店員—客 →○こちらです ×これです を図で説明する
(一応用意しておいて、時間があまった場合説明する)

資料2 日本語教育実習教案2回目

2015.6.22(月) 日本語教育実習教案J2(第四週ニコマ目)

萩原宥子(二回目)

目標	病院や市役所などで場所の説明をされたとき、指示を聞きとることができる。 自分の家について、簡単に場所を説明することができる。
既習	<表現>「お願いします」「…ですね?」「あります」「もう一回」など <語彙>「ひとつ、ふたつ、みっつ…」「X番の方」など
新出	<表現>…授業ではじめて取り扱う 「～のどこですか?(聞き直し)」「Xつ目の角を右/左に曲がると…」 <語彙>…宿題として一通り覚えてきているものとして取り扱う お越しく下さい、地図、～目、検査、階段、角、右、左、X線、まっすぐ、進んでください
登場	キャラクターは登場しない
教具	PPT、リスニングプリント、タスクシート

<会話>

場面 比較的大きな病院で、診察を受けた後、院内を移動して他の部屋に移る。

アナウンス：237番の方、5番カウンターまでお越しく下さい。

受付：こんにちは、カルテをお願いします。

患者：はい。

受付：では、次はX線の検査ですね。二階の検査室に行ってください。

階段を上がって、二つ目の角を右に曲がると検査室があります。

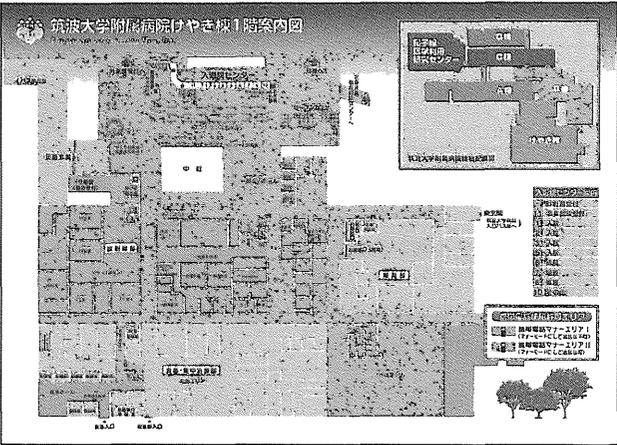
患者：すみません、二階のどこですか。もう一回お願いします。

受付：はい、階段をあがって、そのまま真っすぐ進んでください。

二つ目の角を右に曲がると、すぐ検査室です。

患者：二つ目の角ですね、ありがとうございました。

*この会話をそのまま暗記して言えるようになるのを目指すのではなく、このやりとりが、多少形が変わっても再現できる場所を目指す。

時間/内容	教師の行動	学習者の行動	備考
導入 経過 0:00 実際 16:15 所要 (5)	<p>「こんにちは、萩原です。少し久しぶりですね。よろしくをお願いします」 「見てください、これ何ですか？」</p>  <p>「そうですね、マップ、地図、地図です。マップも OK です」 「これはどこの地図でしょうか。何の地図ですか」 「はい、筑波大学の病院の地図です。とても広いですね。とても大きいです。たくさん歩きます。(人が迷っている絵を PPT のアニメーションで登場させて) どこですか? 難しいですね」</p>	<p>「よろしくお願ひします」</p> <p>「MAP です」</p> <p>「病院…？」</p>	
動画 経過 0:05 実際 16:20 所要 (3)	<p>「見てください」 動画を見せる <上記の会話を PC で流す> 「もう一回見てください」 <もう一回流す></p>		
内容確認① 経過 0:08 実際 16:23 所要 (2)	<p>動画のコマを切ってセリフを載せたものを順に見せる。 文字で見せながら意味の確認を行う。 () 内は説明のしかた。下線部が新出。 ***</p> <p>①アナウンス：237 番の方、5 番カウンターまでお越しください。</p>		

	<p>(「来てください」より丁寧です)</p> <p>②受付：こんにちは、<u>カルテ</u>お願いします。 患者：はい。 (カルテは、医者、ドクターが書くノートです。「カルテはどこ言葉 でしょうか?何語ですか? 英語?違います。ドイツ語です。(国旗を見せる)日本語にはたくさん 英語の言葉があります。みなさん知っていますね。ガム、ペン、リップ クリーム…でも、病院の言葉はドイツ語が多いです)</p> <p>③受付：では、次はX線の<u>検査</u>ですね (英訳で確認)</p> <p>④受付：<u>二階</u>の検査室に行ってください。 (英訳で確認後、ここは何階ですか?順に、一階、二階、三階(読み注 意)、四階…と確認し、「〇〇さんの家は何階ですか?」など軽く練習を 行う)</p>	<p>「英語?」</p>	<p>他にはギ プス、ガ ーゼな ど。覚え てもら うとい うより は息抜 きの小 話とし て。</p>
<p>内容確認② 経過 0:10 実際 16:25 所要(5)</p>	<p>⑤階段を上がって、<u>二つ目の角</u>を右に曲がると検査室があります。(単 語の確認後、右、左、上、下の練習を行う。教師が単語でQ出し→学習 者に身体で反応させたり、教師が身体でQ出し→学習者が単語で反応さ せたり、旗揚げゲームのように学習者が身体を動かせるようにする。 なお、「上がって」に対応する「降りて」も練習に加える)</p>		
<p>内容確認③ 経過 0:15 実際 16:30 所要(5)</p>	<p>⑥患者：すみません、<u>二階</u>のどこですか。もう一回お願いします。(一 部聞き返しの練習。「出身はどこですか」「京都の福知山です」「すみま せん、京都のどこですか」「福知山です」など例文を挙げながら説明す る。)</p> <p>⑦受付：はい、階段をあがって、<u>まっすぐ</u>進んでください。(図で確認)</p> <p>⑧二つ目の角を右手に曲がると、<u>すぐ</u>検査室です。 (図で確認)</p> <p>⑨患者：二つ目の角ですね、ありがとうございました。</p>		
<p>発音練習 経過 0:20 実際 16:35 所要(2)</p>	<p>単語の発音練習(右や左、角、曲がるなどは重点的に、X線や検査室な どは軽く流す)</p> <p>画像出し →リピート 画像Q出し「<u>言ってください</u>」→全体 画像Q出し「<u>S1さん</u>」→個別</p>		
<p>聞き取り・ 応答練習 経過 0:22 実際 16:37 所要(8)</p>	<p>全員でひとつの簡略化された院内の地図を見て、相手の道案内の発話を 聞き取り、選択肢の中から場所を選ぶ練習をする。 地図をだんだんと複雑化させる。 分からない場合は「二階のどこですか?」「もう一回お願いします」な ど、実際の場面に合った質問の仕方をさせる。</p>		
<p>聴解 経過 0:30 実際 16:45 所要(4)</p>	<p>「ではリスニングをします、2つ聞いてください。」 おすすめのレストランの場所を聞きとるタスク、相手の家の場所を聞き とるタスクをそれぞれ1問ずつ *様々な場面のタスクを行うことで、いろいろな場面に応用できること を示す</p>		<p>*時間が 不安な場 合最後に 回す</p>

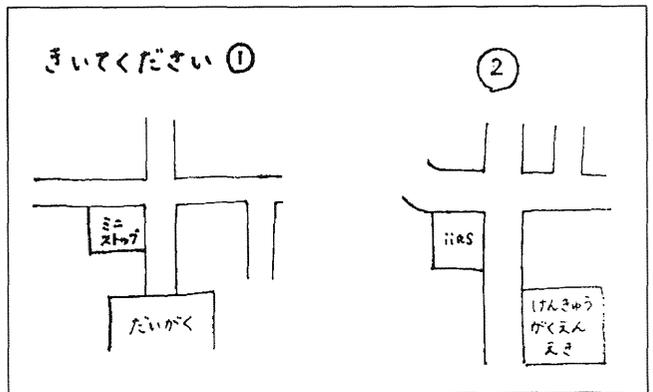
タスク説明 経過 0:34 実際 16:29 所要(1)	最後の聴解タスクと同じような会話ができるように実践練習を行う。 「〇〇さんの家ってどのあたりなんですか?」「お住まいはどこですか?」といった質問に答えられるようになることを目指す 簡単に書いた地図(ここできれいに書いたものを渡すと学習者が地図製作に夢中になる恐れがあるため限りなくシンプルに書いたもの)を渡し「例を見てください。これは私の家です。私の家は春日三丁目にあります。ワンダーグーや、春日小学校の近くです。春日小学校の駐車場をまっすぐ行って、2つ目の信号を右に曲がります。3つ目のアパートです。もう一回言います。…」		
タスク実践 経過 0:35 実際 16:30 所要(2)	「では、まず簡単に地図を書いてください。」 教室を回って様子を観察し、細かく書いている学習者にはシンプルに書くよう指導する。		
タスク発表 経過 0:37 実際 16:32 所要(3)	書き上がったところで時間があればひとりずつ発表する。 (余裕があれば、隣の人と紹介しあってから発表) 発表を聞きながら「三つ目の角を右ですか?左ですか?」「いくつ目の角でしたか?」のように確認を行い、答えられなかった学習者は、発表者に質問をさせる。		
あいさつ	「はい、五分休みましょう」		

聴解 きいてください1

- A: 昨日友達と昼ご飯一緒にたべたんだけど、
 B: うん。
 A: そのカレーが美味しかったんだ～
 B: へ～いいね、どこのお店?
 A: 大学から、ミニストップの角を左に曲がってまっすぐ行ったところ。
 B: え?ミニストップの角を右?左?
 A: 左だよ。

聴解 きいてください2

- A: 萩原さんの家ってどこなの?
 B: 研究学園。研究学園駅から、
 iias のところを右に曲がって、
 ふたつめの角のところにあるんだよ。
 A: え、どこの角?
 B: iias の、大きい交差点。
 A: ああ、iias かあ。



聴解タスクシート

資料3 日本語教育実習教案3回目

2015.7.6(月) 日本語教育実習教案J2(第六週三コマ目)

萩原宥子(三回目)

目標	上、下、右、左などの表現を用いてももの位置についての話ができる。 髪型に関して、自分の意志を伝えて交渉できる。 美容院で必要となる基本的な会話ができる。
既習	<表現>特になし <語彙>体や顔のパーツ、上下など
新出	<表現>…授業ではじめて取り扱う 「もう少し～くしてください」 <語彙>…宿題として一通り覚えてきているものとして取り扱う 前髪、首、大きい、小さい、かわいい、高い、安い、低い、早い、遅い、かしこまりました
登場	キャラクターは登場しない
教具	PPT、福笑いのパーツ

<会話>

場面 美容院でのカット中に美容師と会話をする

美容師：じゃあ、全体的に3センチくらい切りますね。

客：はい、お願いします。

美容師：前髪はどれくらいにしますか？

客：眉毛の下くらいにしてください。

美容師：かしこまりました。

(鏡を持ってきて) どうでしょうか。

客：もう少し短くしてください。

美容師：これくらいですか。

客：はい、お願いします。

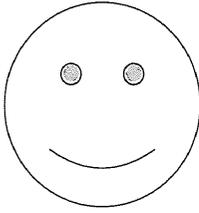
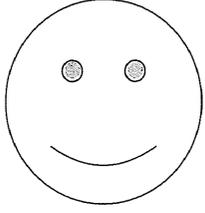
*この会話をそのまま暗記して言えるようになるのを目指すのではなく、このやりとりが、多少形が変わっても再現できることを目指す。

時間/内容	教師の行動	学習者の行動	備考
語彙確認 経過 0:00 実際 17:00 所要(3)	「こんにちは、萩原です。みなさん元気ですか」 「えー本当ですか？ゲームで少しリフレッシュしましょう」 福笑いの顔のベースをボードに貼る 目のパーツを手を持って 「これ、なんですか」 「そう、目ですね。」 目を顔のベースに貼る 順に、目、鼻、口、眉毛、耳、前髪、(首、肩)の順に進める (首、肩はベースと一体化させる) <リピート練習> パーツ出し →リピート パーツQ出し「言ってください」→全体 パーツQ出し「S1さん」 →個別	「元気です、まあまあです」 「目です」	3コマ目なので疲れていることが予測される

<p>文型導入① 経過 0:03 実際 17:03 所要 (1)</p>	<p>すべて張り終えた福笑いから、目だけ取り出す 「見てください、目は、どこですか？眉毛の下ですね」 「ここですか？」 眉毛と重なるくらい近いところに目を貼って、 「もう少し、下です」 「もう少し（手で「ちょっと」の動作をしつつ）下です」 適切な位置に目を貼って 「いいですね」 「じゃあ鼻はどこですか。口の…？」 「口の上ですね、はい、そうです。ここですか？」 口と重なるくらいのところ鼻を貼って、 「ここですか？」 「はい、もう少し上ですね」 全員発言できるように数回繰り返す</p>	<p>首を横に振る、など</p> <p>「上です」</p> <p>「もう少し上です」</p>	
<p>文型導入② 経過 0:04 実際 17:04 所要 (5)</p>	<p>顔に収まらないくらい横長の口を出し 「これ、いいですか？」 福笑いから「短くしてください」というフキダシを出し、 「短くしてください？わかりました」 口の両端を切り、福笑いに合わせる。 「うん、いいですね。」 同様に 「鼻・長くしてください」 「前髪・短くしてください」で練習する。 モニターに「短くしてください・長くしてください」を文で提示する。 「短い・長い」は、い形容詞で、「～する」の場合は「い」を落として「くする」</p>	<p>「大きいです／長いです」</p>	
<p>内容確認② 経過 0:09 実際 17:09 所要 (2)</p>	<p>い形容詞→「くしてください」の変換練習 形容詞：大きい・小さい・かわいい・高い・安い・低い・早い・遅い（←おそらくすべて既習） Tがひとつひとつゆっくりと声に出して読む 「わからない言葉ありますか？」 文字でQ出し→口頭で確認 様子を見て2周ほどさせる *テレビの音が大きすぎるときに「小さくしてください」が使える、など、文の使い道、場面を示しながら教える *余裕がありそうならい形容詞で他に知っているものをあげさせ、練習する</p>	<p>「ありません」or 「～は何ですか？」</p>	

<p>内容確認③ 経過 0:11 実際 17:11 所要(10)</p>	<p>福笑いのゲーム説明 本物の福笑いを出す 「福笑いは、福=good fortune [luck] / blessing 笑い=laugh / smile という意味です。 これは日本の伝統的な traditional なゲームです。お正月、わかりますか、1月の初め、1月1日～7日くらいまでを正月、と言います。このゲームは正月にします。1年のスタートにたくさん笑って、幸せ、ハッピーになるゲームです」 「今は7月ですけど、やってみましょう」 時間を確認して、残り時間が十分でなければ、ひとりかふたりくじで代表者を決めて、ゲームを行う。</p>		
<p>会話導入 経過 0:21 実際 17:21 所要(4)</p>	<p>ビデオを二回流す。 その後、コマ割りして字幕をつけたもので文字での確認。 同様のものに図や絵などを加えた説明的な PPT を用いながら意味の確認。 <説明事項> ・まえがみはどれくらいですか →写真を見て「～のうえ、～のしたくらい」を用いながら説明できるようになる ・「きります」「きる」 ・「3センチ」 →1～10センチまでの読み確認 不規則な読みを中心にランダムに読ませる</p>		
<p>会話復習 経過 0:25 実際 17:25 所要(5)</p>	<p>会話ビデオを①～③コマ分通して流す フローチャートにて流れを確認する 重要なセリフとして ・「カットの予約がしたいんですが」 ・「明日は空いていますか」 ・「電話番号は・・・です」 ・「予約した〇〇です」 ・「これくらい／～のうえ・したくらいにしてください」 ・「もうすこし短くしてください」 を取り上げて復習する</p>		
<p>タスク 経過 0:30 実際 17:30 所要(10)</p>	<p>仕上げのタスク 簡単に美容院のセットを作って、ひとりひとり<予約電話～カット>ができるかどうか確認する その際、オーダーは指示カードに沿って言わせる カードは、左に切る前の before、右に切った後の after のイラストが書かれており、また、四日後までのスケジュールが書かれている。そのスケジュールとお店の都合をうまく調整できるか、オーダーの内容を日本語を使つて的確に示せるかをよく観察し、ひとりがタスクを終えたら間違い修正、またひとりタスクを行う、という流れで進める。福笑いをやらなかった人から始め、時間の調整上福笑いをやった人はスキップする</p>	<p>タスクに取り組む</p>	
<p>あいさつ</p>	<p>「はい、では今日は終わりました。」</p>		

タスクのオーダーカード

SCHEDULE					BEFORE	AFTER
	MON Today	TUE	WED	THU		
AM	/	×	×	○		
PM	○	○	○	×	<p>※学習者の実際の髪型を手書きして渡す</p>	<p>※実際の髪型より短い髪型を手書きして渡す</p>
PHONE						
090-2537-7351 ←※ひとりずつ異なる						